



福山慎一さんはファイナンシャルプランナーとして、顧客の相談に耳を傾ける＝大阪市内

級友とコンサルタント会社超こした

福山慎一さん

れを考える必要はない。同行して銀行を訪ねることも、労をいとわず親身に打ち込む事が評判を呼び、口コミで少しずつ顧客が増えている。

定年前に研修、FP資格取得 独立2年、顧客も増える



シニア生きがいしごとサポートセンターでは、福山さんのように起業をめざす人が熱心に学んでいる＝神戸市長田区

もの財源、結婚を志すに心を次が閉じた。その経験は、「これから何を目的に働いてほしいのか。そう思ったんです。定年後も10年は十分元気に暮らしたい」と決意する。

研修に通い資格を取得。会社が早期退職制度の募集を始める。迷わずその目的のために応募、研修で退職した。福山さんの起業の目標はあくまでも「生きがい探し」。

はなかった。神戸・元町にオフィスを構えたが、広帯を出す余裕資金もなく、客が集まらなかった。資金がほとんど減っていた。不安が頭をもたげ、また元々、高校時代の同級生と話をする機会があった。すでに事業を起している人もあれば、これからの人生をどうしようか迷っている人もあった。みんなに共通していたのは「社会の役に立ちたい」という思いだった。

その同級生ばかり9人が集まって、昨年7月、共同出版で経営コンサルタント会社を大阪市内に設立。共同でひとつの部屋を借りたので、経費も抑えることができた。一方で人脈が広がり、仕事も豊実に増えている。

「会社勤め時代は、会社に行きたくないと思っ自もありました。今は事務所に行くのが楽しい。とにかく、ストレスを感じず仕事ができるのがうれしい」と福山さん。

来年早々には毎月の報酬が出来るのが立ち始めているという。

目標にしていた定年後の人生の夢の実現がここまですべて

何か社会に役立つ仕事を新たにしてみたいという気持ちかわいてきました。多額の設備費や人件費が必要な事業は避け、自分の体ひとつでできる仕事を模索していました。FPの資格が目印になりました。毎週土曜日に専門学校で

そこに多少の収入がついてくればよいという程度に考えている。退職金のうち、住宅ローンの返済と年金を受け取れるまでの生活費の補てん分の残りを事業資金に使うことを妻も認めてくれた。立ち上がりは決して順調で

はなかった。神戸・元町にオフィスを構えたが、広帯を出す余裕資金もなく、客が集まらなかった。資金がほとんど減っていた。不安が頭をもたげ、また元々、高校時代の同級生と話をする機会があった。すでに事業を起している人もあれば、これからの人生をどうしようか迷っている人もあった。みんなに共通していたのは「社会の役に立ちたい」という思いだった。

何か社会に役立つ仕事を新たにしてみたいという気持ちかわいてきました。多額の設備費や人件費が必要な事業は避け、自分の体ひとつでできる仕事を模索していました。FPの資格が目印になりました。毎週土曜日に専門学校で

そこに多少の収入がついてくればよいという程度に考えている。退職金のうち、住宅ローンの返済と年金を受け取れるまでの生活費の補てん分の残りを事業資金に使うことを妻も認めてくれた。立ち上がりは決して順調で

はなかった。神戸・元町にオフィスを構えたが、広帯を出す余裕資金もなく、客が集まらなかった。資金がほとんど減っていた。不安が頭をもたげ、また元々、高校時代の同級生と話をする機会があった。すでに事業を起している人もあれば、これからの人生をどうしようか迷っている人もあった。みんなに共通していたのは「社会の役に立ちたい」という思いだった。

何か社会に役立つ仕事を新たにしてみたいという気持ちかわいてきました。多額の設備費や人件費が必要な事業は避け、自分の体ひとつでできる仕事を模索していました。FPの資格が目印になりました。毎週土曜日に専門学校で

そこに多少の収入がついてくればよいという程度に考えている。退職金のうち、住宅ローンの返済と年金を受け取れるまでの生活費の補てん分の残りを事業資金に使うことを妻も認めてくれた。立ち上がりは決して順調で

はなかった。神戸・元町にオフィスを構えたが、広帯を出す余裕資金もなく、客が集まらなかった。資金がほとんど減っていた。不安が頭をもたげ、また元々、高校時代の同級生と話をする機会があった。すでに事業を起している人もあれば、これからの人生をどうしようか迷っている人もあった。みんなに共通していたのは「社会の役に立ちたい」という思いだった。

何か社会に役立つ仕事を新たにしてみたいという気持ちかわいてきました。多額の設備費や人件費が必要な事業は避け、自分の体ひとつでできる仕事を模索していました。FPの資格が目印になりました。毎週土曜日に専門学校で

そこに多少の収入がついてくればよいという程度に考えている。退職金のうち、住宅ローンの返済と年金を受け取れるまでの生活費の補てん分の残りを事業資金に使うことを妻も認めてくれた。立ち上がりは決して順調で

はなかった。神戸・元町にオフィスを構えたが、広帯を出す余裕資金もなく、客が集まらなかった。資金がほとんど減っていた。不安が頭をもたげ、また元々、高校時代の同級生と話をする機会があった。すでに事業を起している人もあれば、これからの人生をどうしようか迷っている人もあった。みんなに共通していたのは「社会の役に立ちたい」という思いだった。

人生第2幕、起業で一念発起

同様の世代が大量に定年を迎える2007年を目前に控え、大手企業などでは、社員に対し定年後の人生設計をアドバイザーする機会を設けている

福山慎一さんとは、資産運用をアドバイザーするファイナンシャルプランナー（FP）として独立して2年、マイホームを建てる際の資金繰りなどの相談にのることも多く、今後には住宅ローンの借入

大手化学メーカーに勤務していた福山さんは、研究・技術畑を歩み、順調に出世の階段を上っていた。定年までの会社でと考慮していた福山さんの心に変化が起きたのは、50代になってから。子で

NPO法人シニア「しごと」創造塾

社長教育を行う企業担当
中堅化学メーカー、高橋俊
残されたいが不安です。その
なるで自分の経験所の基礎を
るが話し合いのうちに「後を継
シニア」のシニアが専ら上
福山さんのような人を見
会社を辞めたい」となる自分
た。みんなが夢を叶えたい